

森林を活かして、住民の健康、 そして、地域の未来のために～

村上 守義 (むらかみ もりよし)
 うたのぼり・癒しの森「音夢路」利用促進研究会 会長

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第8回コンクールで特別賞を受賞した団体、「うたのぼり・癒しの森」^{おむろ}「音夢路」利用促進研究会会長の村上守義さんにお話を伺いました。

《私有林を活かした町民のための森林セラピー》

^{うたのぼり}歌登は宗谷支庁の南東部に位置し、四方を山に囲まれた地形で面積の8割が森林の町です。その歌登で森林を活かした活動をしているのが、うたのぼり・癒しの森「音夢路」利用促進研究会です。歌登は、2006年に隣接する枝幸町と合併した際、将来、少子高齢化、過疎化等、地域の衰退が危惧される地域となっていました。そんな状況の中、森林セラピー^{なかとんべつ}に関心のあった地元の田中建設(株)田中茂夫会長が、前中頓別町国民健康保険病院の住友和弘院長の指導のもと、所有する山林の201haを癒しの森として整備し、2007年に一般開放しました。9月には、この森を起爆剤として活用し森林ウォーキングを通じた健康増進、地域コミュニティーの醸成、都市山村交流などを図るため町内の有志が集い研究会が発足しました。

癒しの森「音夢路」の名前は、この地域がかつて「オムロシュベツ」と呼ばれていたことに由来し、「音夢路」という漢字に置き換えました。



枝幸高校1年生のふるさと教育



会長の村上さん(歌登市街地を眺望できる高台にある『出会いの広場』)

《楽しんで癒されるウォーキングコース》

当初は、年2回(現在は年5回)の森林ウォーキングを開催し、会員自ら森林やコースの整備、休憩用のイスや簡易トイレの設置などを行っています。これまで56回の「ウォーキングの集い」を開催して、参加者は延べ1,380人になります。全長約3.8kmのコース沿いには、セレモニー会場や休憩場所として歌登市街地を眺望できる『出会いの広場』。森の恵みを楽しむためキノコを栽培している『生産の森』。癒しの森を周回する林道の『セラピーロード』。小動物を観察し動物愛護の心を育むことができる『小鳥の森』。郷土の発展と歴史を見守ってきた推定樹齢約360年のミズナラの巨木がある『長寿の森』。1930年に製造され町内の火の見櫓^{やぐら}で使用されていた鐘を鳴らすことのできる休憩ポイント『癒しの鐘』などさまざまなポイントが整備されています。

癒しの森には、「住民交流となる快適な森林」「体験や生涯学習の場として利用する森林」「地域住民の健康づくりの森林」「森林を活かした林産物生産の森林」と4つのコンセプトが設定されています。

2020年度からは、枝幸高校の1年生を対象に「ふるさと教育(えさし探求)」で基幹産業である林業と木育について学ぶ場を提供し、地元の自然環境保全への理解を深めています。

最後に「自然の森の中に入って、五感(見る・聞く・嗅ぐ・触れる・味わう)を使って木とふれあい、木と楽しんで、木に癒されてもらえたら嬉しいです」と村上会長は語ってくれました。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。